

第 162 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 4 年 5 月 19 日（木）14:30～15:30

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

<報告事項>

◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

1 参加者

玉城 知事、照屋 副知事、島袋 政策調整監、溜 基地対策統括監、
宮城 総務部長、儀間 企画部長、金城 環境部長、大城 生活企画統括監、
系数 保健医療部長、下地 農政企画統括監、砂川 産業雇用統括監、
宮城 文化観光スポーツ部長、島袋 土木建築部長、名渡山 会計管理者、
佐次田 教育管理統括監、我那覇 病院事業局長、松田 企業局長、
喜屋武 警備第二課長 宮里 感染対策統括監、
高山 政策参与、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

欠席：池田 副知事

2 報告事項

(1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

➤ 総括情報部から最新の新規陽性者及び療養者の状況について報告【資料 1】

✓ 5/18 の新規発生は 2,560 名となっている。

(2) 沖縄県内及び全国の感染状況について【資料 3、3-1～3-10】

➤ 総括情報部から、警戒レベル判断指標の状況や各種分析資料について報告。

✓ 判断指標の人口 10 万人当たりの新規陽性者数はここ数日 1,000 人台、病床使用率は 55%前後、国基準の重症者用病床使用率は 20%台で推移している。

- ✓ 参考指標の、新規 PCR 検査の陽性率は 20%台が続いている。直近 1 週間の新規陽性者数の前週比は緩やかな下がり傾向。
- ✓ 療養者数について、急激な新規陽性者数の増加に伴い、入院者数は 350 名となっており、重症者数は 4 名となっている。宿泊施設療養中は 600 名で推移しており、自宅療養中は 14,666 名に入院等調整中の感染者と合わせて、5/18 の療養者数は 18,040 名となっている。
- ✓ 非コロナ病床については、5/18 の総合計は 94.7%となっており、特に中部では 100%を超える水準となっている。
- ✓ 直近 1 週間の人口 10 万人あたりの新規陽性者数は沖縄県が全国 1 位。北海道が 2 位で、宮崎県、福井県、石川県が続いている。
- ✓ 市町村別で見ると、名護市で 1.89 となっており、圏域別に見てみると各圏域で増加傾向にある状況となっている。
- ✓ 新規感染者に占める 60 歳以上の割合を見ると、依然 10%前後で推移している。
- ✓ 患者受入医療機関の就業制限(休業)状況を見ると、5/18 で 598 名が休業している状況で、うち、看護師が 317 名と半数以上を占めている。
- ✓ 5/9 の週における県外からの移入例は 54 名となっており、全体に占める割合は 1%を切る状況が続いている。5 月 2 週目は 20 都道府県からの移入例を確認している。
- ✓ 沖縄県疫学・統計解析委員会の分析によると、実効再生産数については、沖縄本島 1.20、宮古 1.09、八重山 1.27 となっており、大型連休後も全県的に陽性者数の増加が続いている。
- ✓ 年齢階級別の増減率を見ると、10 代が 18%と最多。10 歳未満、30 代と続く。性差で見ると、20 歳未満では男性が、20 歳以上では女性が多い状況に変化はない。
- ✓ 高齢者では 90 代で急速に増加していたが、各年代とも先週前半から増加速度

が減弱している。

- ✓ 先週の新規入院患者数は 193 名で、うち、70 歳以上の高齢者が 106 名（55%）と、半数以上を占めている。
- ✓ 社会福祉施設で療養中の陽性者が、先週末時点で 48 施設 306 名と急速に増加している。
- ✓ 今後の見通しと対策として、沖縄県では、大型連休をきっかけに感染が拡大しており、先週は 1 日あたり 2 千人を超える新規陽性者数が続き、30 人前後の新規入院を認めている。ただし、先週後半より感染拡大が減弱してきた可能性があり、今後、若者から高齢者へと二次感染の波が重なってこないか注視が必要。
- ✓ 今年 1 月の第 6 波のような爆発的拡大は認めていないが、感染は抑えられていない。
- ✓ 今週の新規陽性者数は 12,000-18,000 人、今週末までに入院患者数は 480-570 人に至り、重症者数は 8 人前後と見込まれる。
- ✓ ワクチン接種を 3 回目まで追加することにより、入院と死亡のリスクを減らすことができる。とくに高齢者の方々は、今のうちに接種をすませてください。

（3）沖縄県の人口変動状況について【資料 5】

- 沖縄県の人口変動状況について、総括情報部より説明があった
 - ✓ 沖縄県内の人口変動状況について、令和 2 年 3 月 20 日を起点とし、商業エリアでは-16.9%、空港エリアでは-10.4%の減少が見られる。

（4）宮古・八重山地域の感染状況【資料 7】

- 宮古・八重山地域の感染状況について、総括情報部より説明があった。
 - ✓ 宮古圏内の新規感染者数（直近 1 週合計）は、5/11 に 744 名、5/14 に 824 名

が確認されており、1日の新規陽性者数でも5/10に155名を確認している。

- ✓ 八重山圏内の新規感染者数（直近1週合計）は、5/16から400人を超える人数が確認され、1日の新規陽性者数は5/17に91名が確認されている。

（5）検査事業実績について【資料8】

- 検査事業実績について、総括情報部より説明があった。
 - ✓ 一般の無料検査では、陽性率が9.38%と高い陽性率となっている。

（6）ワクチンの接種状況について【資料9】

- 総括情報部より報告。
 - ✓ 5/17時点での接種実績として、1回目71.4%、2回目70.5%、3回目41.8%が接種済みとなっており、3回目の接種は高齢者の82.1%が接種済みとなっている。
 - ✓ 4/30実施のサンエー那覇メインプレイス臨時会場では、499名が接種。
 - ✓ 5/14実施のイオンモール沖縄ライカム臨時会場では、285名が接種。
 - ✓ 企業・団体枠の接種状況について、県広域ワクチン接種センターでは令和4年4月以降で1企業、4大学、4専門学校で計129名へ接種済み。2企業、2専門学校では現在調整中。
 - ✓ 市町村接種会場では、1大学（200名、名護市）1大学（17名、宜野湾市）と調整中。

（7）県立病院の状況について

- 病院事業局より県立病院の状況について報告
 - ✓ 5/18時点の県立病院の入院患者数は全体で92名となっており、前週（105名）より13名減、前々週（61名）より31名増。

- ✓ 県立病院の入院者数の内訳としては、北部病院 26 名、中部病院 20 名、南部医療センター 23 名、宮古病院 12 名、八重山病院 5 名、精和病院 6 名の計 92 名となっている。非コロナ病床稼働率は概ね 90% 台を超えている。
- ✓ 北部病院では、数は減りつつあるが高齢者施設で散発。医師会病院も満床で北部病院への救急搬送は増加。一般医療もひっ迫しているが、今のところ診療制限をせずに医療を提供している。応援看護師を要望する。
- ✓ 中部病院では、救急室は連日 100 人以上の患者が受診しており、半数以上はレッドゾーン対応の患者。厚労省から 5 名派遣され助かっているが、それでも足りない。コロナ発生患者が多い中、毎日のように施設へクラスター対策班の派遣や他の県立病院への応援、DMAT の派遣などマンパワーが足りず、医療従事者は疲弊している。
- ✓ 南部医療センターでは、5/9 に発生したクラスターの累計感染者数は変わりなく、14 名のうち 8 名は回復している。救急室受信者は 70~110 人と多数だが、発熱棟を運用し混乱は避けられている。ICU で高齢の人工呼吸器管理患者は離脱した。職員の休業者は看護師だけで 28 名いるが、県外からの応援看護師 7 名が来て助かっている。
- ✓ 宮古病院では、島内は連日 100 人超えの発生があり、感染者の半数は 10 歳未満。厚労省から 3 名の派遣応援があるが看護師の休業者は 23 名に増加している。また保育所などに通園の子をもつ看護師は 68 名おり、児童の感染により就業制限の予備軍になる。診療制限の延長をあと 2 週間行う予定 (6/6 まで)
- ✓ 八重山病院では、GW後の八重山地域での新規陽性者数は明らかに増加しており、今週は 90 名近くで推移。ただ入院患者に大きな変化はなく、かつ中等症が多くないのが幸いしている。
- ✓ 精和病院では、民間精神科病院で複数のクラスターが発生しているが人数が多くステイになっている。精和病院の病床が埋まる可能性が高いが、今のところ

通常診療や精神科救急の診療は行えている。

(8) 宮古・八重山地域の感染状況について

➤ 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。

- ✓ 宮古では1週間で724名程度の感染者が発生しており、前週より0.9倍となっており、減少傾向。ただし、全国平均の6倍、県平均の1.3倍で第6波の2倍。
- ✓ 年齢別に見ると10歳未満が21%で最も多く、次いで10代が14%となっており、20歳未満が同程度で推移している。次に30代。60歳以上が20%で県平均よりも宮古では高齢者に広がっている。
- ✓ 職業別についてはさまざまな職業で感染者が発生しているが、農業での感染が増えてきている。製糖期間が終了したため打ち上げなどで広がっているかもしれない。
- ✓ 施設での感染について、今週は21件ある。先週は14件だったため増加傾向。施設の累計は97施設。第7波では240名の施設関連の感染者が出ている。一施設あたり2.5名程度発生しており、第6波の211名を既に超えている。
- ✓ 医療機関のクラスターについて、職員13名入院患者42名の陽性者となっている。先週から散発的に発生していたが、5/13を最後に新たな陽性者は出ていない。療養中の入院患者も42名から28名となっている。最短で24日以降にクラスターは終息するものと思われる。
- ✓ 宮古保健所の体制は外部から12名応援があり、一日当たり180名分の疫学調査を対応できていたが、保健所職員から陽性者や濃厚接触者が出ており、現在80名程度に低下している。一時300名分ほど滞っていた疫学調査は70名程度まで減少していたが、現在180名ほど滞っている。
- ✓ 疫学調査は現在一日180名程度対応できているが、休日でやや遅れが出てしまう傾向にある。

- ✓ 医師会あてに、検査の対応や発生届の記入、自宅療養者や施設療養者向けの処方などの医療提供についての対応について、かかりつけ医や施設などが対応できない場合に対応してもらおうという方向で診療所に調査を行っている。
 - ✓ 県が行っているワクチンの接種の呼び込みや医療の提供などを働きかけるよう市に提案した。ワクチン接種の呼びかけについては、手始めに接種率が低いと推定され、大口の規模でできそうな建設業や観光業へ声をかけてはどうかと提案。
 - ✓ 高齢者のワクチンについて、3回接種の効果は4か月程度であり、医療従事者や高齢者は主に1月で接種を行っており、5月には効果が落ちているものと推測される。6月にはほとんど効果がなくなっている可能性もあるので、5月中に感染拡大を抑えないとより広がるかもしれない。4回目の接種を進める必要がある。
 - ✓ 12歳未満の陽性者は第7波が974名で第6波の306名から3.25倍程度となっている。宮古島の12歳未満の子どもは約7,000名で、20%近い子どもが感染したことになる。
 - ✓ 検査体制について、検査のキャパオーバーよりも検査後の診断など医療体制のキャパオーバーになっていると推測される。保険PCRや行政PCR、民間PCRなど、複数の検査体制がありどこに検査の情報について集約されておらず、どこに負担が行っているのか見えにくい。検査の全体層を把握することが必要。他の都道府県と比較できるようにすることも必要だと思われる。
- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況について報告。
- ✓ 5/12の週の感染者は464名で前週比1.3倍程度と増加傾向。
 - ✓ 年齢別に見ると10歳未満が約40%を占めている。90代も23名が陽性となり、全体の5%を占めている。入所施設での集団感染が原因で、5/5に初発の患者

が発生し、翌日までに入所者 33 名職員 5 名の 38 名が陽性となった。

- ✓ 5/17 に八重山病院と保健所の保健師が施設に立ち入り感染対策について再確認を行った。
- ✓ 竹富町では 15 名療養中。以前は子どもの部活関係が多かったが、今週は宿泊関係での感染が認められている。5/14 には観光客の感染があり、石垣島のホテル療養へ移送を行った。
- ✓ 与那国町では 16 名新規感染者が発生。小中幼稚園で 9 名、その家族が 7 名と子どもの交友関係から家庭内に広がっている状況。
- ✓ 5/16 より電子申請を利用した聞き取り調査を行っている。20 代を中心に利用が広がっており、業務の効率化に期待。
- ✓ 毎日の感染状況や注意事項について、県の出先機関に共有している。
- ✓ 子どもの感染拡大を抑制する取組について、市、2 町の保健関係の部署から教育関係、保育所関係へ情報提供の依頼をしている。
- ✓ 出先機関からの動員は毎日 2 名お願いしており、5/23 より 4 名に増加することを調整している。

(9) 空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の運用状況等について【資料 10】

- 文化観光スポーツ部から、空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の状況について報告。
- ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、5/9 の週の受検者は 3,076 名で、前週比 -1,379 名。うち 126 名が陽性であった。陽性率は 4.1%。
- ✓ 那覇空港抗原検査について、受検者は 434 名で、その内陽性は 7 名であった。内訳は、迅速 PCR 検査で 7 名。
- ✓ TACO について、5/9 の週の電話対応件数は 33 件で、うち健康相談・問診実施数は 13 件となっている。

- ✓ RICCA について、5/13 時点の登録者数は 149,742 名となっている。(前週より +437) 登録施設等は 19,061 件。(前週より+83)

(10) 感染症対策専門家会議の概要について。

- 総括情報部より、感染症対策専門家会議の概要について説明があった。
 - ✓ 今後の検査・診療体制（仮）について、現在一般病床もひっ迫しており、今後新規陽性者が 4,000~5,000 人に増えると破綻する。今後は無症状、低リスク陽性者の感染管理、体調管理は自主性に重きを置いた対応をせざるを得ない。
 - ✓ 検査体制の主な提案として、軽症者はなるべく市販の抗原検査キットを利用、診療でも抗原定性検査を活用。PCR 検査は、接触のあった無症状者や高齢者施設のスクリーニングの重点化。学校・保育 PCR 検査事業は、幼稚園、保育園、学童のみで継続実施。その他希望者は発症時に抗原定性検査キットなどで判定。
 - ✓ 入居施設に加え、通所施設の感染者と同一空間を共有した者の集中的 PCR 検査。その場合、保健所の濃厚接触者の特定はしないが、検査結果がでるまでデイサービスの利用休止。
 - ✓ 診療体制の主な提案として、軽症の自宅療養者は、できるだけ市販薬の活用、救急受診を控えていただく。発症時に備えて、解熱剤、鎮咳剤等を備蓄。
 - ✓ 委員の主な意見として、抗原検査の活用は賛成だが、市販キットは 1~2 千円の自己負担が発生する問題がある。PCR は無料のため、検討が必要。
→東京都で実施している事業があり、現在検討中。
 - ✓ 学校 PCR 検査について、現在の運用の問題点。
→1日 50 件程度なら対応可能だが、100 件を超えると遅延が発生。感染者が増加し、キャパを超えた状況。実情として、受付から検査結果の判明まで 3~5 日を要している。
 - ✓ 抗原検査のメリットは、結果がすぐにわかること。病院で数時間待つて検査を

受けるよりも良い。

- ✓ 医療機関のひっ迫について、県民の理解が得られるよう、広報・説明が求められる。
- ✓ 薬の備蓄を呼びかけるにあたって、一般の方がコロナをただの風邪という誤ったメッセージとして受け取らないよう、病院の状況がひっ迫していることと併せて県民にしっかり説明を。
- ✓ 社会経済活動を拡大していく風潮の中で、病院の中と外とのギャップが大きい。ここ3年で今が一番きつい。感染者数が減らない中で病院の頑張りがきかなくなっている。
- ✓ 感染対策としてはこれまでと変わらない。これまでこの対応でも減っておらず、いつか病院がパンクしてしまう。感染者数を抑えるのか、それとも抑えるのをやめるのか、行動の抑制に言及するのか。
→ 飲食の時短要請など、まん延防止重点措置が、今の状況に合ったものなのか、感染拡大防止と社会経済活動の維持をどのような方法で抑えるのか悩ましいところ。県民の理解が得られなければ、実行力が伴わないため、総合的に検討が必要。
- ✓ 感染拡大や医療のひっ迫の状況を踏まえると、この2週間でワクチン接種率を一気に引き上げていくべき。
- ✓ 3日の休暇が取れるようなワクチン休暇を出すなど、経済界にもしっかりお願いしてほしい。
- ✓ まとめとして、増え続ける感染者に対して、県民への呼びかけはこのままでよいのかという意見があった。最近の自由な空気の中、医療従事者が疲弊していることを県民に強くわかってほしいという意見があった。

(11) 報告事項についての意見等について

- ✓ 感染症対策専門家会議で挙げた意見について、医療機関のひっ迫に関すること、受診に関すること、子どもたちを見守るポイントなど啓発の必要なものに関して RICCA、ホームページ、ラジオ県民室などの県の広報媒体を用いて県民に対し PR を行おうと考えており、検査について、抗原検査をさまざまな場面で適応できるようリエゾンチームの協力を得ながら進めているところである。
- ✓ 学校 PCR の抗原キットの配布についてはどのように検討しているのか。
 - 学校 PCR 検査については、感染者が増加しキャパオーバーの状況から遅延が出ているところであり、今後は既存の PCR 検査に加えて有症状者へ検査キットを届け、速やかに結果が得られるような体制の構築について検討している。
- ✓ 抗原キットは結果が直ぐに出ること、自宅で検査できるといったメリットがある一方で、陽性になった後の診断を求められた際にどう受け止めるのか。患者が陽性者登録センターに登録してから発生届が出るという流れだと思うが、センターがパンクしてしまい抗原キットは配ったが機能しなくなるといったことがないよう、医師会などに協力を求めてもよいのではないか。
 - 抗原キットで陽性になった方については、結果を画像で送付しオンラインで診断が受けられるシステムを再稼働しており、現在 1 日あたり 40~50 名を診断している。ご指摘のとおり、医師会に協力を求めておりボトルネックにならないよう体制の拡張を進めていきたいと考えている。

閉 会